

基調講演

-1 What is a Safe Community and How do we get there

Lief Svanstrom (レイフ スヴァンストローム)

スウェーデン王立カロリンスカ医科大学教授、WHOセーフコミュニティ協働センター代表

URL:<http://www.phs.ki.se/csp> E-mail:leif.svanstrom@ki.se

What is a Safe Community?
And
How do we get there?

Symposium for
Safety Promotion in Kameoka
Sept 23, 2007

WHO
Collaborating Centre
on
Community Safety Promotion

Leif Svanström
Karolinska Institute
Department of Public Health Sciences
Division of Social Medicine

I am Leif Svanström
What did I do the last years
as a private individual?

Leif Svanström
Clan leader of 14 (15?)

私はWHOにある、地域レベルでの安全を向上するための安全センターのセンター長を勤めております。私たちはWHOの暴力や外傷などを担当している部署と連携して取組を進めています。それが1つの側面で、もう1つの側面は、世界中に広がっているセーフコミュニティという取組がありますが、それを推進しております。

私は普段、スウェーデンのストックホルムにあるカロリンスカ医科大学で教授をしています。しかしながら、ほとんどの時間、世界中を飛び回っています。今まで私はこのセーフコミュニティという概念を60以上の国で話してきました。そう考えると、まだ70カ国も行かなければならない国があることとなります。しかし、私はそれをやり遂げたいと思っています。



私はスヴァンストローム一人として、14人のリーダーであることを誇りに思っています。14人のリーダーといいましたが、グループといいますが、14人の家族のリーダーということなのですが、そういつている間に15人に増えているかもしれません。なぜなら、私の家族の中ではいつも誰かが妊娠しているのです。だから、今頃15人のメンバーになっているかもしれません。したがって、今日は個人的な話をするのを、お許しください。

私はこの外傷予防について40年以上取り組み、地域レベルでの安全向上に、30年以上関わっていますが、個人的というのはどういう意味かをお話したいと思えます。

2年半前、突然起こったことというのが、この写真にあるとおりです。ぜんぜん予期していなかったのですが、突然4人の孫が生まれてしまいました。私には4人の子



どもがいますが、偶然にも同時期に子どもを出産しました。この写真は左から2人目の子が、洗礼を受けた日に撮ったものです。私のアジア人の孫です。みなさん見てお分かりになると思います。洗礼の式が終わった後に家族で集まりまして、自宅で小さなパーティーを開きました。それぞれの家族が赤ちゃんをこのようなカゴに入れてやってきました。これは車のチャイルドシートです。スウェーデンでは着用が義務づけられています。

これは私が25年前に導入するようにしたものです。そのときは、このようなシートはなかったのですが、今ではスウェーデンのすべての車に、これを備え付けてられていまして、赤ちゃんは、必ずチャイルドシートに座っているという状況になります。その結果、スウェーデンでは、ほとんど赤ちゃんが車の事故で亡くなるということを聞きません。私の娘や子どもたち全員がこのようにチャイルドシートを使っているのを見て、私は非常に誇りに思いました。なぜなら、直接にはチャイルドシートをするように教えたことはありません。ですが、彼ら・彼女たちは自発的にこのように使っているのを見た時に非常に誇らしく思いました。

安全というものは、私が第一に優先するものであるし、私の子どもにとっても第一位の事項です。そのあなた、安全というのはあなた自身の一番の問題です。そこにいる二人の女性、あなた自身の責任の問題なのです。ですが、コミュニティ・地域も、それを支援することができるのです。あなたたちが持っている安全に関する責任は決して人に譲るということができないものなのです。コミュニティはサポートすることはできますが、それをコミュニティに任せるということはできません。

なぜなら、もし事故にあったとき、家族を失ったときに、悲しむのはあなた自身だからです。どんなにみなさんが、自分には責任がないと言い続けても、悲しむのは、みなさん個人の話なのです。この孫が生まれるまで私の人生はもっと簡単だったのです。孫が生まれてからはいつもこの子たちのことが心配でたまらなくなってしまうました。亀岡市では交通事故で亡くなる方が結構いらっしやいます。ですので、亀岡市では、交通の安全というのは、生まれた時から、亡くなるそのときまで取り組むことが必要です。

私の孫たちは非常に泳ぐのが大好きなのです。特に温泉で泳ぐのが大好きで、でもそのためには100%の安全を確保しなければならない。それでこういうようなライフジャケットを発明したのです。これで彼ら・彼女たちは完全に安全になります。スウェーデンはとてたたくさんの水に恵まれた環境にあります。たくさんの川があります。たくさんの湖があります。日本と同様に海に囲まれています。このような中で私たちには水に対する安全というのが非常に大切になります。神様を信じているだけではだめなのです。



これは孫たちが少し大きくなったときの写真です。これを見ていただくと分かる通り、私の庭はいろいろなものがあり自然が豊かです。子どもたちに安全な環境であるために私はネットを張り巡らしました。これは湖を背にして撮った写真なのですが、冬場はすごく寒くなります。なので、薪でストーブを焚きますが、そのときは非常に危険ですのでその周りに囲いをしました。この囲いは絶対に熱くなりません。なので、子どもは触ってもやけどをしませんし、火の危険から逃れることができま



す。

この男の子は、知的障害がありますので、何回教えても無理があるのです。ほかの3人の女の子はもうそろそろ安全について分かるようになってきています。ですが、この男の子に関してはどうしても安全ということを学ぶことができないので、危険には無防備にならざるをえないような状況になります。

これが今の男の子のお母さんです。一番年下の娘で、31歳です。今、2人目の子どもを身ごもっています。彼女は今ご飯の用意をしているところです。コンロの周りに囲いのようなものをしてあるのが、おわかりになるでしょうか。これがあると、子どもは絶対に火にかけてある鍋に触ることができないのです。もし、娘が子どもを意識せずに料理をしていて水が飛び散っても、これがあると絶対子どもにはかからない。私は、日本の台所を見たことがありませんが、おそらく似たような状態にあると思います。でもこれは、家に常に備え付けられているものではありません。やはり購入しないとイケない状況です。みなさんは、小さい赤ちゃんがやけどをしているところを見たことがありますか？たぶん、何人かの方は見たことがあると思いますが、大変ですよ。赤ちゃんは非常に熱に対して敏感です。非常に危険です。人生の中でも一番危険なことです。そう考えると、この囲いというのは非常に安い保険というか、危険から身を守る道具ということになります。



この写真は2人の孫がご飯を食べているところなのですが、これは子どものための専用のイスです。みなさんもこれはお持ちですよ。ご存じですよ。このベビーチェアは、イギアというのをご存じでしょうか、日本にもあると思いますが、そこで買いました。とてもお手ごろな価格です。つまり、私はこれを4つ持っているということなのです。

この障害を持っている男の子なのですが、彼は本当に自分自身をコントロールできない状況にあります。ですので、私たちはいつも彼に注意を払っておかなくてはならない状況にあります。

そのために何が出来るか、1つは安全な環境にするということ。もう1つはお父さん・お母さんがしっかりと見守りを行うということになります。私たちが分かっている「何が危ないか」ということと、子どもにとって「何が危ないか」ということは必ずしも同じではないのです。

私の女の子の孫の1人は癖がありまして、すぐどこかに行ってしまうのです。2秒もあればすぐどこかへ行ってしまうのです。森につっこんでいくような早さでどこかへ行ってしまうのです。そこには、彼女がおぼれるかもしれない池があります。ほかにたくさんの危険があり



ます。ですので、私たちはいつも子どもたちに対して注意を払っていなければなりません。あなた方も覚えているかと思いますが、子どもというのは動物と一緒にですね。どうしようもない動物と一緒になのです。子どもによっては、その時期が長い、年を重ねてもその時期が続く、ということもあります。おそらく今日ここにいるみなさんにはそういう方はいらっしゃらないと思うのですが、他のところにはそういう方もいらっしゃる。



これは男の子が二歳半の時の写真ですが、彼がようやく歩くということを学び始めたところです。ですが、安全のために常に補助具をつけています。私たちが子どもの時は安全なブランコはありませんでした。ですが、技術の発展によって、ますます安い価格によってより安全性の高いものを手に入れられるようになってきているのです。



これを見てわかっていたきたいのは、大人の行動というのが子どもにどのような影響を与えているかということです。この3人の孫がどんなスポーツが好きかこの写真を見ておわかりいただけますか？彼らは大きくなったときには必ずラウンドホッケーをするようになります。息子たちもラウンドホッケーが好きだったので、やっぱり彼らの子どもも好きになってしまいます。こんなステイックなんか持たせたら振りかざして危ないのは目に見えているのに。何でこんなことをさせるのかと、おじいちゃんの私は首を横に振るばかりです。

でも、もし私が思っているように世の中がいけば、子どもたちにとってはきっとつまらない世界になっている

と思います。ですので、私たちは彼らにとって人生が退屈でつまらないものにするのではなくて、いかにこういう楽しみをうけながら、安全ということを確保できるかということを考えるということが私たちの役目になります。

私は釣りが大好きです。息子もそうです。なので、彼の娘もやっぱり釣りが好きです。いまこれはちょうどネットを持って釣りに出かけているところです。彼女の身につけているものを見てください。これは大きいボートに乗ったときには簡単に脱ぐことのできるジャケットです。池に落ちたりしたときは、ほとんどの場合水は冷たい。もしベストを着ていなかったら1秒以上は我慢できない。もしみなさんが落ちたりしても、命を守るために、まずできる予防というのは、良いジャケット、暖かいジャケットを着るといことになります。

湖に行くまでに階段があります。100段ありますが、段差がみんな同じにしてあります。もし、段差がバラバラ



だったら、必ずこの子たちは転びます。大人もそうだと思います。この段差のそれぞれの差というのは3mm以上あっては危ないです。そうでなければ、必ず落ちてしまいます。子どもというのは、段差は同じということを前提としていますので、その予測がはずれると、転落しやすくなってしまいます。

4つの手すりがあります。一番高いところに、両手を伸ばしてつかむことのできる手すりがあります。その下の低い段のところにもう1つつけてあります。それは子どもが握ることができる手すりでありました。転倒が一番重大な事故でもあります。なので、彼女たちは大人たちを前にして、2人で手をつないで、手すりを持ちながら歩いています。



ではまた、私の経験に基づいて少しお話をしたいと思います。まず個人レベルでみなさんが安全について何ができるかをお話ししたいと思います。グループで、私の家族もある種グループといってもいいですが、そのレベルで何ができるかをお話ししたいと思います。

それでは、どうやってコミュニティレベルで、地域レベルで、社会レベルで世界を安全にできるのでしょうか。そのためにはまず、自分の経験を広めていくということが大切です。なのでえ、私は、コミュニティレベル、地域レベルでの安全の向上というのは非常に大切だと思います。どう思いますか？同意していただけますか？

		Safety Promotion												
Level	Sector	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
International														
National														
Community														
Organisation														
Group														
Individual														

Safety Promotion done by the individual

同意していただけますか？

亀岡市役所のみなさん、篠町、保津川町の自治会の皆さん、昨日はありがとうございました。昨日お話しいただいたことや視察したことは、みなさんもお聞きになったらきっと感心されると思います。おそらく他の地域も、自治会もきっと同じような取組をされていると思いますし、もしそうでなくてもみ

		Safety Promotion												
Level	Sector	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
International														
National														
Community														
Organisation														
Group														
Individual														

Community Safety Promotion

なさんご安心ください。市の職員や亀岡市セーフコミュニティ推進協議会のみなさんたちがきっと広めてくれるはずです。

コミュニティレベルの、地域レベルの安全というのが、私たちが言っているセーフコミュニティというものの意味になります。様々なレベルで安全の取組ってできるのですね、個人、グループ、組織、国や、地域や、社会や、そして世界レベルで取り組むことができます。セクターというのはいったいどのように考えられているのでしょうか。

4人の赤ちゃんがチャイルドシートに座っている写真を覚えていらっしゃいますか？あれが交通事故の安全というものをまさに象徴しているものです。これは私たちが交通安全にかけてきた努力の結果が、あのような写真にあらわれていたわけです。もう1つが水の安全です。今学校に入る前に、幼稚園や保育園で水の安全について学びます。私たちは安全への希望というものを作り上げていっているのです。安全な遊びも作っています。この子たちをどんどんこういう環境で育てていくことによって、安全

がどんどん広がることになります。安全なスポーツ、安全な公共施設、どんどん概念を広げていくことができます。

そのようにコミュニティレベルで安全に関して取り組んでいる人たち、一緒になって分野の垣根を越えて取り組まなければならない。たとえば行政の方で、交通の担当の課の方たちが、「私たちは最大限の努力をしているんですから、他の部署のことは他の部署のことなので関係ない。」とやっていては、意味がないことなのです。彼らたちは、警察だとか学校だとかいろんな分野の人たちと協力して進めていかないといけないのです。安全な環境というものを作り上げるため、すべての家庭、すべての学校やすべての組織が、協力しないと作り上げることはできません。



Indicators for International Safe Communities

Safe Communities have:

1. An infrastructure based on partnership and collaborations, governed by a cross-sectional group that is responsible for safety promotion in their community;
2. Long-term, sustainable programs covering both genders, all ages, environments, and situations;
3. Programs that target high-risk groups and environments, and programs that promote safety for vulnerable groups;
4. Programs that document the frequency and causes of injuries;
5. Evaluation measures to assess their programs, processes and the effects of change;
6. Ongoing participation in national and international Safe Communities networks.

セーフコミュニティには6つの指標というのがあります。セーフコミュニティになるためにはこの6つの指標を満たさなければなりません。

1つめはより安全な地域づくりを目指して分野や領域の垣根を越えて共同で取り組む組織があるということ、2つめはすべての性別・年齢・環境・状況を対象にして長期かつ継続的なプログラムがあるということ、3つめが危険度の高い集団、例えば危険な年齢・地域・環境に焦点をあてたプログラム、弱者を対象としたプログラムがあること、4つめが外傷の

頻度・原因などを記録するプログラムがあること、5つめがプログラム・取組の過程・取組の結果・効果をアセスメントするための評価基準があること、6つめが国内及び国際的なセーフコミュニティのネットワークに積極的・継続的に参加すること。

亀岡市ではすでに1番の垣根を越えた組織というのは設置されていますよね。今その組織に求められていることをさらに発展させていくという取組になります。私は思うのですが、スポーツの安全というものにもっと取り組んでいくグループがあってもいいのではないかと思います。あと、職場の安全というものに取り組むのも大切だと思います。もっとコミュニティレベルでの人々をサポートするような仕組みがあってもいいのではないかと思います。

地域レベルでの人たちも今とても熱心に取り組んでいます、最新のデータ、最新の取組、最新の技術をどうしても持ち合わせないものがあります。そういうときに必要なのが、都道府県だとか、国レベルだとか、あるいは国際的なレベルから得ることができる様々な技術や知識だったりするわけです。ですから一番大切になるのは、センターとなるグループだと思います。中心となるグループは何かというと、国際的、国レベルからの知識やノウハウを地域レベルまで落としこんであげるといった役割ができるもの、そして地域での取組や地域でのノウハウを国レベル、国際レベルに持ち上げていく、この二つの方法を担う組織というのがセンターグループの役割になると思います。



ですから私たちは日頃から、国際的な大会・会議・コンテストを国レベルでやったり、地域レベルでやったり様々なレベルでやっている訳なんです。この活動というのは、終わることのない取組なのです。これから、何百年たっても続けて行かなくてはならない取組なのです。

男性と女性ではそれぞれさらされている危険というのが異なってきます。すべての年齢層にそれぞれ危険な要因というものがあります。あらゆる環境によって危険要因というのは異なってきます。すべての環境・状況に危

険というのは形を変えて存在します。あなた方にアドバイスしますのは、サーベランスシステムを持つことです。みなさんは、まだサーベランスシステムを始めたばかりで、データがまだできていません。ですので、スリリングなこれからの取組になります。このデータが出たときに、データをもとにみなさんの生活の中で何が危険なのか、危険要因なのかが見えてくるのです。いわゆる、弱者といわれる方は、一般の方よりも危険となる要因がたくさんあります。

5つめは自分たちの取組を評価するという仕組みを持ってください。亀岡市には大学がございますよね。京都市内にも、府内にも大学がありますよね。そのような専門機関と提携して、しっかりとした評価基準を持ってください。大学の多くは大変なのです。生徒の卒業論文のテーマを探すのに必死になっています。そういう人たちを使ったら、ほとんどタダで助けてくれるのではないかと思います。強いていえば、お茶の1・2杯でも出してあげれば、喜んで私たちを助けてくれるのではないのでしょうか。

6つ目は、国レベル、国際レベル、ローカルレベルでこのように情報の交換というようなことをしてほしいと思います。どうかみなさん、恥ずかしがらずに、遠慮せずにどんどん世界や国レベルに出てってください。国際レベルで見ても、みなさんがされていることというのは、決してひけを取らない。どうか、たくさんあるアジアの国々にみなさんが日頃の生活の中でやっている取組を紹介してください、共有してください。そして、彼らがみなさんのやっていることを真似できるようにサポートしてあげてください。

11月22日から25日の間に、タイのバンコクでセーフコミュニティでの大会があります。どうかみなさん1人でも多くの方に来ていただきたいと思います。話を聞きに来るだけでなく、みなさんがやっている取組をぜひ紹介してあげてください。みなさんの中には、英語ができないから、という方がいらっしゃると思います。全然心配しないでください。みなさんの周りに誰か、英語のしゃべれる人がいるでしょう。その人に、ちょっと助けてって言ってください。もしいかなかったら、ここにいるチョ教授に、ちょっと助けてください、といってください。

この写真を見ると、これから私の孫が、これから始まる、長くて、暗くて、寒い冬に備えているというのが見ていただけだと思います。どうです、空がみなさんにハローと手を振っています。これから、半年の間に私にはあと3人の孫が生まれる予定ですので、間もなく7人の写真がここに飾られることになると思います。もちろん、アクシデントゼロの場合ですが。どうかみなさん安全向上のために取り組んでください。

この写真は、この2日間亀岡市で見せてもらった、取組の内容です。おそらくみなさんが関わられている活動があると思います。もしかして、みなさんの取組も日本で初めてのセーフコミュニティになるのではないかと思います。長時間にわたり、ご静聴いただきありがとうございました。



Good luck to Kameoka!
**-The first designated Safe Community to
be in Japan?**



逐次通訳：白石陽子((株)マチュールライフ研究所)